継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	児童遊園改修事業					事務事業コード	01807
部名	都市建設部	課名	みどり公園課	係名	みどり公園係	部課コード	050300

1. 事業概要

総合計画コード	5313	5513			
事業年度	年度 ~ H	年度	事業類型	☐ ソフト事業	☒ ハード事業
法令等の義務付け	☐ 法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ☐ 義務と任意の両方を含んでいる事業 ☒ 任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務		<根拠法令等(法律、条例、要綱など)>		
めざす目的成果	児童遊園施設の改修を行うことにより、市民が公園を活用しやすくなっている。				
事業内容	児童遊園地の遊戯施設、休養施設、修景施設、運動施設等の改修工事を行う。				
事業手法	☐ 市の完全な直営 ☒ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☐ 市民等との協働 ☐ 補助金交付 ・児童遊園の改修工事 ・専門業者に調査依頼して、調査結果を基に改修工事を実施				

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容		児童遊園地の改修工事全般(児童遊園地 81箇所) ・遊具施設、植栽、休養施設、管理施設等の改修工事				
		単位:千円	H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算見込	
投入コスト	a 事業費[イ]~[ホ]		2,977	3,474	4,000	
	財源内訳	[イ]国庫支出金				
		[ロ]県支出金				
		[ハ]地方債				
		[ニ]その他				
		[ホ]一般財源	2,977	3,474	4,000	
b 人件費		5,862	5,130	3,298		
総コスト(a 事業費 + b 人件費)			8,839	8,604	7,298	
投入労働量	常勤職員等(人工)		0.80 人	0.70 人	0.45 人	
	一般職非常勤職員等(時間)		時間	時間	時間	
a 事業費(H28年度決算見込)の執行内訳		・工事請負費 4,000千円				
指標名		単位	H28目標・計画 (H28実績見込)	H29目標・計画 (H29実績見込)	H30目標・計画 (H30実績見込)	最終目標・計画 目標年度
活	① 児童遊園改修件数	件	18	18	18	18
			(6)	(—)	(—)	H 32 年度
動	② 児童遊園改修対象箇所数	箇所	80	80	80	80
			(81)	(—)	(—)	H 32 年度
成	① 遊具の不具合による事故件数	件	0	0	0	0
			(0)	(—)	(—)	H 32 年度
果	②					
			()	(—)	(—)	H 年度

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い	☐ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
		☒ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☒ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☐ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☐ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☐ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 市民の憩いの場として、市民が安全で快適に児童遊園地を利用できるようにするために、市が施設を改修する必要性は高い。		
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☒ B 概ね目標の成果が得られた	☐ C 目標とする成果が得られなかった
		☐ 活動指標の目標を達成した ☒ 成果指標の目標を達成した ☐ 指標に表れない事項について目標を達成した ☐ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 開発行為により設置された児童遊園地の移管を受けたため、対象の児童遊園地が増加した。遊具点検で指摘を受けた遊具の改修を行い、より安全・安心な利用ができ、質の向上にもつながった。		
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 遊具等の施設を安全に使用できるように、改修工事を行った。 参加と協働: 利用者からの通報に、迅速に対応した。 経営的な視点: 改修費用の平準化を図るため、計画的に施設の補修・更新を行った。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☒ I 見直す余地がない	☐ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
		☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☐ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☐ その他 <説明> 児童遊園地施設点検業者、管理業者、ボランティア団体、職員の巡回等で施設の破損等を事前に発見し、事故を防止している。		

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期 : ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期 : ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期 : ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期 : ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
	成果の方向性	☐ A 拡大	☒ B 現状のまま	☐ C 縮小
投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大	☒ B 現状のまま	☐ C 縮小
	労働費	☐ A 拡大	☒ B 現状のまま	☐ C 縮小
今後の取組方針	見直しの方向性	☐ A 見直して継続 ☒ B 現状のまま継続 ☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期 : H 年度) ☐ 業務プロセス改善 (実施時期 : H 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期 : H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期 : H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期 : H 年度) ☐ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期 : H 年度) ☐ その他 (実施時期 : H 年度)		
	方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)	施設点検業者や児童遊園地管理業者と連携を図り、速やかな施設の改修に努める。		